

55 山口東京理科大学

Tokyo University of Science, Yamaguchi

山口東京理科大学 学生フォーミュラチーム

TUSY-Formula

<http://www.ed.yama.tus.ac.jp/~formula/tusy/index.html>

悔しさの残る未完走



今回の総合結果・部門賞

●総合48位

Profile チーム紹介・今までの活動

私たちのチームは創部5年、大会出場4回目を迎えました。前大会まではマシンを形にするだけで精一杯でしたが、今年は性能を向上させるための改良に取り組みました。念願の完走を果たすべく1年間活動を続けてきました。

Team-member チームメンバー

原賀 幸 (CP)

貴島 孝雄 (FA)、田上 晶遥、池 恭史、
柿原 崇寛、古賀 郁也、永富 洋平、野村 翔太、
秋吉 祐希、安部 祐希、上森 大雅、高山 健太、
福永 博基、山縣 慎雄、小倉 直人、岡村 明、
金城 克司、行川 裕也

Presentation

プレゼンテーション

今年度のマシンは昨年度に引き続き、「リニア感のある操縦性」をコンセプトとしました。ここでいうリニア感とはドライバーの入力に対して線形に反応する特性や感覚のことを指します。コンセプトを具現化するために、各パートにおいて何をもってコンセプトの達成とするのかについて考えました。

昨年度の大きな問題としては、エンジンレスポンスが非常に悪い点が挙げられ、エンデュランスにも出走できませんでした。今年はエンジンのECU書き換えとスプロケットの大型化でパワー、レスポンスを大幅に向上させました。また新たにスタビライザーを前後に装備することでロールを抑え旋回性能を向上させました。さらにドライバーの身長差が大きいと、ペダル位置の可変機構を設けて対応しています。軽量化にも取り組み、昨年度よりも車重を4kg軽くすることができました。

例年より2ヶ月早い5月にシェイクダウンを行うことができました。しかし、メンバーの気が緩んでしまいマシンの最終完成が大会1週間前になってしまいました。その結果、計画していたよりも練習走行が不足することになりました。シェイクダウン時期は歴代で最も早かったのですが、スケジュール管理の徹底という大きな課題を残しました。明らかになった多くの課題に向き合い、14回大会へ向けて活動していきたいと思えます。

Participation report

参戦レポート

今までで最も完走に近づいたとともに、悔しさの残る大会となりました。技術車検は再車検となりながらもプレーキ試験は1回で合格することができました。再車検の指摘項目はその日に修正し予定どおり1日で車検を通すことができました。これまでの大会で車検に対応してきた積み重ねがあったからだと思います。

静的審査に関して得点は上がりましたが順位は下がってしまい、静的審査全体の得点の底上げという課題が残りました。特にデザイン審査ではコンセプト具現化へのアプローチの甘さが目立ちました。動的審査に関しては得点を伸ばしており、特にオートクロスでは昨年よりもタイム・得点ともに上回りました。しかし、審査が無効になってしまい得点に入らなかったことが残念です。エンデュランスでは2人目のドライバーへの交代時にエンジンの再始動をすることができずリタイヤとなってしまいました。トラブルへの対処法、信頼性の確保という点で課題が残るものとなりました。

全員完走をめざしており、あと一歩というところでのリタイヤはとても悔しいところでした。マシンを完成状態にする時期が遅れたこと、それによる走行練習の不足がこのような結果を招いたと言えます。来年は悔しさをバネにマシンの熟成並びに完走と15位以内をめざし、マシン・チーム共に進化していきたいと思えます。

最後になりましたが日々活動を支えてくださっている、スポンサー企業の皆様、OB、父兄、大学関係者、大会関係者の方々、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

Sponsors スポンサーリスト

ソリッドワークスジャパン、NTN、住友電装、ダウ化工、サンライト、ミスミ、F.C.C.、THK、ミネベア、エヌ・エム・ビー販売、レイズ、和光ケミカル、日信工業、やまと興業、イーモン、キノクニエンタープライズ、富士精密、ウエストレーシングカーズ、本田技研工業、ザム・ジャパン、山口東京理科大学、ホンダマイスタークラブ、協和工業、株式会社プリオテック、タカタ、亜細亜製作所、寺田製作所、ロードスタークラブオブジャパン、ナチュラサーキット、山陽ツール、オートエグゼ、内田鋼機

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/55.html>